

## 「第2回 兵庫県防災会議 原子力防災計画専門委員会」 議事概要

1 日時： 平成28年3月15日（火）14:00～15:10

2 場所： 兵庫県民会館 鶴

3 出席者： 矢守委員長、近藤委員、西山委員、八木委員、安田委員、山口委員

4 内容：

### (1) 兵庫県地域防災計画（原子力等防災計画）の修正案について

（資料1～資料3に基づき説明）

#### 【主な修正意見】

- 避難の広報文例があるが、むしろ避難しないでいい人達に何を伝えるかが主眼となるはず。文例を載せるのであれば、別のパターンを足すと、全体の整合性がとれるのではないか。
- P.25の情報提供については、緊急時の備えと平時の情報提供と分けて記載すべき。P.33の知識の普及・啓発の箇所に記載してはどうか。
- 意思決定や指揮命令系統についてあまり明確に書いていないが、誰がそれぞれの判断をするのかというのはどこかで明確にしておくのが重要。訓練等を通して、随時更新していくことを確認するような書きぶりにはどうか。

#### 【その他の主な委員意見】

- シミュレーション自体には技術的なレポートをまとめたものとして価値があるが、国のシミュレーションは、防災計画や地域の防災計画に書くには距離があるという感じがする。
- 計画は、決定論的にやるのではなく、訓練等を踏まえて対策がどれくらい効果があるかをきちんと評価すべき。一自治体でできることではないので、国に対して要望を出してもらいたい。
- どういうふうになれば最悪のブルームを今後捉えることができるかという視点で、モニタリングポストを固定化するのではなく、今後臨機応変に変更してはどうか。
- ヨウ素剤はどうしても飲んでおけば何とかかなという印象が伝わっているが、内部被ばくをしないためにマスクが吸い込む量を減らすために有効であるとかという情報などと一緒に伝えていくことが必要ではないか。兵庫県内であれば、計画上このような書きぶりになる。啓発や知識普及の点で対応すべき。
- 例えば学校への連絡などは、情報伝達のフローを確認しておくべき。
- 市町村職員に対する研修とか知識普及が非常に大切。機会があれば職員に対する研修をやる方がいいのではないか。
- 研修等を受けた人材が、災害時には情報受取者や発信者となる点も考慮に入れ、人材育成を進めていくべき。